

応募者名	摂南大学 経営学部 久保研究室 経営情報楽環プロジェクト	分野	その他
取組名称	人と地域と大学の輪を創る経営情報楽環プロジェクト	取組地域	宮崎県美郷町

概要	
取組内容	データベースやプログラミングの情報技術と経営学、経営工学を組み合わせた実践的な課題解決を行っている。取り組み例としては、IoTによる生産支援システム、アロマオイルの品質管理システム、ふるさと納税データの分析システムの開発や、公的団体のDX支援、個人事業主向けシステム開発セミナー、子供向けプログラミング教室、青少年へのサイバー防犯教室などの開催がある。さらに、オープンデータを利用したアプリ開発、「カレーに乗せてはいけない福神漬け」の開発、データに基づいた「コト」のふるさと納税商品の開発なども行っている。継続的に学生が地域に関わりながら楽しく学び続けられる「経営情報楽環」の構築を目指している。
実績や効果	アロマ蒸留の温度感知 【取り組み前】作業者2人が常時監視 【取り組み後】ブザー雷動時に1人が対応 【得られる効果】作業人員を半減させ、別作業の時間が増加 ふるさと納税の返礼品販売状況の可視化 【取り組み前】契約の業者が対応不能 【取り組み後】商品単位、カテゴリ単位で可視化 【得られる効果】データ起点の協働体制の構築
取組全体を通じて訴えたいポイント	・継続的に学生が参画するために、イベント支援、企画提案、他者との協働、専門人材としての役割などを段階的に学んでいる ・経営情報学分野としての調査・研究を土台として実践による検証を行っている ・単なる支援にとどまらず、DX人材の育成、組織風土の変革、異業種交流など継続的な改善につながる活動を行っている

詳細	
地域の課題解決・魅力向上	地域企業や自治体に対してデータ分析やプログラミングを効率的に導入できている。ふるさと納税のデータ分析から安定した魅力を持つ商品と不安定なものを抽出し、地域の実情と市場との関係を考慮した商品開発を提案している。人口減少、働き手不足の環境でも効率的に課題解決につながる技術や知識の提供、定着を図っている。
独自性・先進性	従来から行ってきた対象地域を固定した活動では発展が継続しないため、実際に活動する学生の準備学習から実践経験、評価活動を軸として、地域やそれまでの活動にとらわれない「学び」を「楽しく」実現する「環」境づくりを提唱している。地域そのものをキャンパスと捉え、多様な人と関わりながら新しい学校を目指している。
持続性・発展性	20年以上、自治体や公的団体へのアンケート調査やヒアリング調査を継続的に実施し、情報化、経営度、DXなどについて分野を上げながら発展段階を提案している。そのため、活動の対象地域が増加した場合にも的確に状態を判断し、効果的なステップを提示でき、データに基づいたブランド開発、返礼品開発などが実行できる。
他地域への横展開	DX支援やまちづくりに関わる活動は大学の近隣自治体（大阪13、京都1自治体）から宮崎の複数自治体へと拡大している。自治体のDXから企業のデータ活用支援、地域全体のサイバー防災活動へと対象を拡大している経験を踏まえて、他地域への展開と本取り組みの効果検証を企図して「地方創生人材支援制度」へも応募している。
取組を進めるうえで苦労した点	・組織によって実行速度と意思決定の過程に大きな違いがあり、時機を逃すことが多々あった ・学生の純粋な想いが社会人の意識よりも高い場合があり、調整に苦労した ・自治体が既存の枠組みだけで実施しようとして根本的な提案の実現が困難になった ・要求された内容に対応する手順をデザインするための指導が複雑であった
取組の成果を上げることが出来た秘訣・工夫	・活動の軸を「学ぶ場の構築」と決めて地域を限定せずに学生を主体としたこと ・参加学生が一度きりで終わらずに継続的に基礎スキルを向上させていること ・学生一人ひとりが取り組みのゴールを設定して達成までのストーリーを描いていること ・ストーリーを共有して素早く対応できる自治体職員や地域の事業者と関われたこと
今後の展望	今年度中に地域に関連するデータを分析する大学発ベンチャー企業を立ち上げる。来年度は他大学の学生も地域で活動を行える「コトの返礼品」を実現する。これらの活動を継続できる場として町立大学などの枠組みを構築し、地域の人々、自治体職員、大学教員、学生、卒業生などの若者たちが学び続ける「環（わ）」を創造する。